



株式会社ジーエヌアイグループ

2025年12月期 第1四半期 決算説明資料

患者の皆様に 新たな希望を

Agenda

1. 会社概要

2. 決算ハイライト

3. 2025年第1四半期 セグメント別

4. 今期業績予想（2025年12月期）

5. 補足資料

1. 会社概要

会社概要

■ 本社住所

〒103-0023
東京都中央区日本橋本町二丁目2番2号
日本橋本町Y Sビル3階

■ 設立

2001年11月

■ 資本金

13,322 百万円(2025年3月末時点)

■ 上場取引所

東証グロース市場
(2007年8月上場／証券コード：2160)

■ 主な事業

グローバルな医薬品の研究開発、製造・流通、
生体材料事業

■ 代表取締役社長兼CEO

イン・ルオ Ph.D.

■ 従業員数（グループ全体）

867名(2024年12月末時点)

■ 主な拠点

日本・アメリカ・中国・オーストラリア



取締役代表執行役社長 兼 CEO

イン・ルオ Ph.D. Ying Luo

アンメット・メディカル・ニーズ（満たされていない医療ニーズ）に対する新しい治療薬の開発のために、日本、アメリカ、中国の製薬業界のユニークな強みを活用する新たなビジネスモデルを開拓。

1991年 コネチカット大学保健センターから分子生物学/生物医学の博士号を取得。30年以上のキャリアの中で35件以上の研究結果や出版物の共著者であり、16件以上の特許における発明者でもある。

クラス1.1の新薬として中国で初めて認定された、当社グループの主力製品である肺線維症治療薬アイスーリュイを開発。また、肝線維症の治療薬候補であるF351(ヒドロニドン)が、CDEから初の画期的治療薬として指定されるなど、革新的な医薬品の研究開発を牽引。

2024年 Forbesが選ぶ中国で最も影響力のある100人に選出。

主な創薬・製薬

<製薬>

アイスーリュイ（一般名：ピルフェニドン）



- ・中国語：艾思瑞、英語：ETUARY®
- ・特発性肺線維症（IPF）適応症とする治療薬
- ・適応拡大へ向けた臨床試験実施中（第3相3件）
- ・中国で患者向けNPOへの寄付を毎年実施

<創薬>

F351（一般名：ヒドロニドン）



- ・治療薬の存在しない肝線維症に対する期待の治療薬候補（第3相臨床試験 10月22日終了）
- ・ブロックバスター候補薬
- ・2021年「画期的治療薬」に認定（中国国家薬品监督管理局より）
- ・中国ではB型肝炎及びMASH*、米国ではMASH*を適応症

標的タンパク質分解誘導剤



- ・独自の標的タンパク質分解誘導技術プラットフォームuSMITE(TM)を活用
- ・がん、痛み、自己免疫疾患等を適応症とする新薬創出を目指す
- ・アストラゼネカから出資及び取締役とアドバイザー受入
- ・アステラス製薬と大型契約を締結
- ・第1相臨床試験実施中（3件：2件中国、1件オーストラリア）

*MASH=代謝異常関連脂肪肝炎

グローバル中堅製薬企業への飛躍に向けた 子会社上場戦略

グローバルな経営体制の構築を推進

持続的な成長と株式価値の最大化

CEOを中心とするマネジメントリスクの低減



製薬

欧米の投資家へ
当社グループの価値を訴求



創薬

人材の獲得並びに創薬活動
のグローバル展開を加速



メドテック

提携等を含めた
グローバル展開による
シナジーの加速

2. 決算ハイライト

連結損益計算書

- ・ 自社株価予約取引による営業損失、R＆D前営業利益では＋34百万と黒字で推移
- ・ セグメント別売上収益（前期比）：製薬事業△6.5億円、創薬事業△0.5億円、メドテック事業＋1億円

(単位：百万円)	2024 Q1	2025 Q1	前期比	増減要因
売上収益	5,948	5,320	△10.6%	
売上総利益	4,731	4,116	△13.0%	
販売費及び一般管理費	3,288	3,826	＋16.4%	
研究開発費	688	806	＋17.1%	
営業利益	2,283	△772	－	マッコーリー社との自社株価予約取引による損失 △6.30億(実現損失約4.83億円並びに前期末に計上 された評価益1.46億円の評価替え) →セグメント別「その他」に含む
税引前当期利益	1,827	△837	－	
当期利益	1,344	△1,266	－	
親会社帰属当期利益	1,454	△530	－	

セグメント別

(単位：百万円)	製薬		創薬		メドテック		その他	
	2024 Q1	2025 Q1	2024 Q1	2025 Q1	2024 Q1	2025 Q1	2024 Q1	2025 Q1
売上収益	3,982	3,315	401	353	1,290	1,370	285	279
営業利益	1,501	810	△744	△1,138	283	245	4,307	△898

Note：Gyre Therapeutics, Inc.の業績はその他に含まれております。
各セグメントの合算値と連結財務諸表における実績値との乖離は連結修正によるものです。

連結貸借対照表

(単位：百万円)	FY2023 Q4	FY2024 Q4	FY2025 Q1	前期比
非流動資産合計	33,475	42,720	41,504	△2.8%
のれん	14,246	15,994	15,131	△5.4%
無形資産	8,852	11,026	11,353	+ 3.0%
流動資産合計	30,793	29,222	26,496	△9.3%
売掛金	3,973	6,236	5,552	△11.0%
棚卸資産	2,217	2,529	2,938	+ 16.2%
負債合計	27,764	32,229	31,342	△2.8%
非流動負債合計	19,571	19,764	19,351	△2.1%
流動負債合計	8,193	12,464	11,991	△3.8%
資本合計	36,504	39,713	36,659	△7.7%
資本金等その他	20,434	19,887	19,944	+ 0.3%
利益剰余金	8,790	9,888	9,358	△5.4%
その他の資本の構成要素	4,569	6,669	4,794	△28.1%
親会社帰属持分	33,794	36,446	34,097	△6.4%
非支配持分	2,710	3,267	2,561	△21.6%

2024年12月期：売上減少・売掛金増加要因（サマリー）

連結売上高

売掛金

【売上減少】

前期の一時金影響による対前年比減収

創薬事業において2023年に契約一時金47.2億円受領
売掛金の発生する継続事業比較では前年比24.2億円増収

【売掛金増加】

①M&Aによるメドテック事業の増収

生体材料事業牽引のBABに加え、2023年オーソバイオ
ロジクス事業一部買収に伴い、子会社Berkley Biologics
を設立

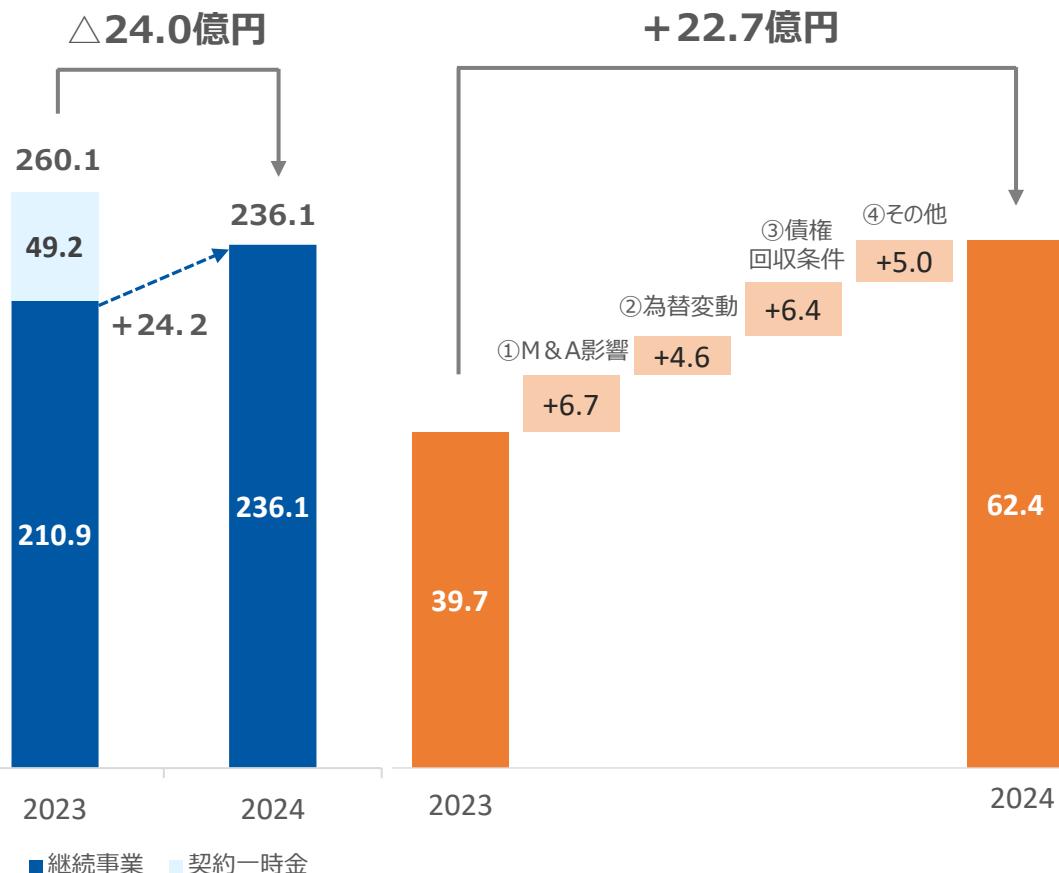
（2023） 19.7百米ドル→（2024） 33.5百米ドル増収
に伴い、売掛金4.3百米ドル（6.7億円）増加

②為替変動による円換算額の増加

円安による売掛金の日本円換算値が増加
2023年12月期の売掛金39.7億円を2024年12月期の為
替レートで換算すると44.3億円
換算値で売掛金が対前年比4.6億円増加

③製薬事業の取引条件（回収期間）の変更

通常より短期であった商社決済条件が、新薬販売拡大・
財務安定を背景に見直し
売掛対売上指数が1.79 → 2.10に上昇し、売掛金が4百
米ドル（6.4億円）増加



2024年12月期：売上減少・売掛金増加要因（詳細）

■ 売掛金増加要因

①M&A効果によるメドテック事業の増収

2023年のM&A、Berkley Biologics設立に伴う増収

- メドテック事業売上及び売掛金

(単位：百万ドル)	FY2023	FY2024	増減
売上	19.7	33.5	+13.8
売掛金	4.4	8.7	+4.3

②為替影響による円換算額の増加

円安による売掛金の日本円換算値の増加

- 2023年末売掛金の円換算比較

(単位：百万円)	FY2023	FY2024	増減
USD/JPY	141.83	158.18	
売掛金	3,970	4,428	+458

③製薬事業の取引条件（回収期間）の見直し

- 条件変更前

通常病院向けの販売は回収に時間がかかるため、新薬上市時より商社の決済機能を利用

一般的な回収期間：6カ月～12カ月

Gyre Pharmaceuticals：1か月～2カ月

- 条件変更後

新薬上市時の取引条件設定時と比較し販売額が大幅に増加、またGyre Pharmaceuticalsの財務基盤が安定している事を理由に条件変更に合意

※仮に2023年12月期の売掛対売上指数の1.79が維持された場合は、2024年12月期の売掛残高は横ばいの15.7百万ドル
実際には回収条件変更に伴い、売掛対売上指数が1.79→2.10へと上昇

- 2024年12月期(主要な顧客に関する情報)

顧客名	セグメント	億円
Sinopharm	製薬 (Gyre Pharmaceuticals)	51.1
China Resources Pharmaceutical	製薬 (Gyre Pharmaceuticals)	16.2
Astellas Pharma	創薬	14.4
Stryker Spine	メドテック	8.2
Huadong Medicine	製薬 (Gyre Pharmaceuticals)	7.5

- 売掛対売上指数

(単位：百万ドル)	FY2023 通期	FY2024				前年比 増減	FY2024 Q4 (指数が維持された場合)
		Q1	Q2	Q3	Q4		
売掛金	15.6	15.5	18.6	19.5	19.6	+4.0	15.7
棚卸資産		4.9	5.6	6.4	6.3		
売上高	104.5	27.0	25.0	26.0	28.0		28.0
月平均売上高	8.7	9.0	8.3	8.7	9.3		
売掛対売上指数	1.79	1.72	2.23	2.25	2.10		1.79

連結貸借対照表/ のれん及び無形資産の内訳

	主な内訳	FY2023 Q4	FY2024 Q4	FY2025 Q1	増減
(単位：百万円)					
のれん		14,246	15,995	15,132	△863
	Gyre Pharmaceuticals	173	188	179	△9
	Gyre Therapeutics	7,080	7,616	7,196	△420
	Berkeley Advanced Biomaterials	6,701	6,653	6,289	△364
	Berkley Biologics	1,175	1,230	1,163	△67
	マイクレン	272	272	272	0
	GNI Hong Kong	31	35	33	△2
無形資産 (内訳は主な項目)		8,852	11,026	11,353	+327
	特許権	0	202	187	△15
	顧客基盤	2,362	2,468	2,297	△171
	ブランド	67	69	64	△5
	資産計上開発費	6,383	8,038	7,865	△173
	Gyre Therapeutics Gyre Pharmaceuticals	4,254 2,128	4,745 3,293	4,485 3,380	△259 +86

① のれんの増減は全て為替変動によるもの

② 主にBerkley Biologics の顧客基盤
(2023年オーソバイオロジクス事業一部買収により)

③ Gyre Therapeuticsが保有するF351の権利
(実際の開発費用は含まず)

④ Gyre Pharmaceuticalsの第3相以降研究開発費
(中国でのF351上市后、10年で償却予定)

キャッシュフロー

(単位：百万円)	2025年12月期 第1四半期実績
営業活動によるキャッシュ・フロー	△287
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,151
財務活動によるキャッシュ・フロー	△619
現金及び現金同等物の換算差額	△427
現金及び現金同等物の増減額	△183
現金及び現金同等物の期首残高	10,115
現金及び現金同等物の四半期末残高	9,931

研究開発費

- 第3相以降の臨床試験に係る開発費用については資産計上の条件に適合
- 中国で実施した臨床試験の資産計上は会計基準および税制に則った会計処理
- 資産化された開発コストは為替の影響により、円ベースで対前年比減少

	2022 通期 実績	2023 通期 実績	2024 通期 実績	2024 Q1	2025 Q1	前年比
(単位：百万円)						
連結研究開発費	2,545	2,557	2,811	688	806	+17.2%
資産化された開発コスト	606	940	1,165	258	△173	—
合計	3,151	3,497	3,976	947	979	+3.4%

為替前提：2025年12月期

■ 為替レート

	2023年12月期 (実績)	2024年12月期 (実績)	2025年12月期 (想定)
米ドル	140.67	151.69	145.00
中国元	19.82	21.04	20.50

■ 為替感応度

為替変動は円換算値に影響あるが、利益率への影響は軽微

	売上	営業利益
USD/JPY ±1円	± 0.60 億円	± 1.49 億円
CNY/JPY ±0.2元	± 1.97 億円	± 0.45 億円

3. 2025年第1四半期 セグメント別

■ 業績

(単位：百万円)	FY2024				FY2024 通期実績	FY2025 Q1	対前年比	FY2025 通期予想
	Q1	Q2	Q3	Q4				
売上収益	3,982	3,862	3,778	4,226	15,847	3,315	△16.7%	20,202
営業利益	1,501	898	1,095	509	4,003	810	△46.0%	4,640

■ 業績概要

売上及び利益は前年同期比減少となったものの、当初計画では上振れており想定水準で着地

① 前期販促の影響

2024年初頭に実施した地方の市場拡大を重視した販促活動が収益を大きく押し上げたが、2025年第1四半期は同様の活動を見送ったため、その反動で減収

② 研究開発費の増加

F351の第3相臨床試験の結果に関するデータ分析費用が発生しているため、研究開発費が増加

③ 今期販促の目的

2025年3月に販売を開始したCONTIVA（アバロンボパグマレイン酸塩）及び5月に発売を予定しているニンテダニブの市場導入を支援

CONTIVAは肝疾患の治療薬であり、この販売を通じて、同じく肝疾患の治療薬であるF351の本格的な市場投入に先立ち、販売ルートを事前に開拓していく戦略

■ 今期見通し：2025年5月15日時点、過去最高となる売上及び利益見通しに変更無し

・ F351のトップラインデータ公表は2025年第2四半期を予定

	製品名・一般名	適応症	備考
肺疾患	アイスーリュイ (ピルフェニドン)  艾思瑞 吡非尼酮胶囊	・ IPF（特発性肺線維症）	・ 中国IPF市場の主力製品 ・ 適応拡大へ向け第3相臨床試験進行中の3件に加え、 2025年4月にがん関連肺合併症を対象としたIND 申請を取得
	ニンテダニブ  伊妥瑞 乙磺酸尼达尼布胶囊	・ IPF（特発性肺線維症） ・ 全身性硬化症に伴う間質性肺疾患 ・ 進行性線維性間質性肺疾患	・ 2025年5月に販売開始（予定） ・ IPF領域の補完
肝疾患	CONTIVA (アバロンボパグ)  康曲欣 马来酸阿伐曲泊帕片	・ 慢性肝疾患による血小板減少症 ・ 慢性特発性血小板減少症	・ 2025年3月に販売開始 ・ 将来的なF351の上市に向けた販売網の確保により シナジー効果を最大化

【製薬】開発パイプライン

品目	適応症	場所	前臨床	第1相	第2相	第3相	NDA	上市済
F351 (ヒドロニドン)	MASHに関連する 肝線維症	米国			2025年第2相臨床試験を開始予定			
	B型慢性肝炎に 起因する肝線維症						2024年10月 第3相臨床試験完了	
アイスーリュイ (ビルフェニドン)	特発性肺線維症 (IPF)							
	皮膚筋炎に伴う間質性 肺疾患 (DM-ILD)							
	全身性硬化症に伴う間 質性肺疾患 (SSc-ILD)							
	じん肺							
	糖尿病性腎臓病 (DKD)							
F573	急性肝不全(ALF)/ 慢性肝不全の 急性増悪(ACLF)	中国					2023年3月 第2相臨床試験開始	
F528	慢性閉塞性肺疾患 (COPD)							
F230	肺動脈性肺高血圧症 (PAH)						2025年第2四半期 臨床試験開始予定	

**B型肝炎に苦しむ
患者の皆様に新たな希望を。
F351の想い**

B型肝炎に苦しむ

患者の皆様に新たな希望を。

F351の想い

肝炎は世界で 2 番目に多い感染症による死亡原因

世界肝炎サミット2024年4月9日

ウイルス性肝炎による推定死亡者数は、110万人から2022年には130万人に増加（2019年）
うち83%がB型肝炎

世界で 2 番目に多い感染症による死亡原因

主要な感染症による死亡原因である結核と同数
慢性 B 型肝炎感染者のうち、診断を受けているのは 13%（2022年末時点）
治療を受けているのは約3%

WHO : 2024 世界肝炎報告書(244頁)

- B型ウイルス感染者
グローバル：2 億5400万人
中国：7970万人
- 西太平洋エリア(中国含む)
感染者数：9,680万人
年間死亡者：51.8万人
慢性B型肝炎の診断率：25.5%
診断後の治療率 23.2%
B型感染者全体に対する治療率 5.9%

B型肝炎に苦しむ

患者の皆様に新たな希望を。

F351の想い

中国において推定6,000万人～7,970万人が B型肝炎ウイルス感染者

段階	説明
1. B型感染	B型肝炎ウイルスに感染。急性肝炎として治癒する場合と、持続感染（HBVキャリア）となる場合がある。乳幼児期の感染はキャリア化しやすい。
2. 慢性B型肝炎（CHB炎症）	ウイルスが持続感染し、肝臓で炎症が続く状態。 ウイルスの活動性により肝機能の状態は変動する。
3. 肝線維症	慢性的な炎症により、肝臓の組織が硬く線維化していく状態。 初期には自覚症状がないことが多い。
4. 肝硬変	肝線維症が進行し、肝臓全体が硬くなり、正常な構造が失われた状態。肝機能が著しく低下し、様々な合併症を引き起こす可能性がある。
5. 肝細胞癌	肝硬変を背景に発生することが多いが、慢性肝炎や肝線維症の状態でも発生することがある。 定期的な経過観察が重要。
6. 肝移植 （必要な場合）	末期肝硬変や進行した肝細胞癌に対する治療選択肢の一つ。 肝臓の機能が回復しない場合や、肝細胞癌が進行した場合に検討される。
（補足）	全ての人がこの順序で進行するわけではない。無症候性キャリアの状態が長く続く場合もある。 既存のCHB療法等により進行を遅らせることが可能。

Note: 60 million from GYRE Therapeutics estimated low range. 75 million from 2024 published national serological survey HBsAG 5.86% (n=91869), 79.7 million from 2024 WHO report on CHB

B型肝炎に苦しむ

患者の皆様になんたな希望を。

F351の想い

F351 推定患者数の試算：約300万人*

①B型肝炎患者数

条件	人数	割合
中国人口	1,411,100,000	—
HBV陽性者総数	82,690,460	5.86%
HBV陽性者数（対象外年齢控除）	75,000,000	-9.30%



②B型肝炎患者のうち、感染認識の有無

条件	人数	割合
感染の認識なし	30,915,000	41.22%
感染の認識あり	44,085,000	58.78%



③感染認識がある治療中患者数 患者は抗線維化薬のF351と既存療法を併用

条件	人数	割合
CHB療法の適応外	27,222,488	61.8%
CHB療法の適応有、治療受けず	9,222,582	20.9%
CHB療法の適応有、治療中	7,639,931	17.3%



④治療中患者のうち、Ishakスコアが2以上 F351はF2以上の患者を対象

条件	人数	割合
Ishak 2未満	4,583,958	60.0%
Ishak 2以上*	3,055,972	40.0%

定期的な中国全国規模の血清疫学調査

1992年から2020年にかけて保健当局はB型肝炎防・管理状況を監視・評価するために、全国的な血清疫学調査を4回実施

2020年に感染症に関する中国「第13次五カ年計画」

B型肝炎調査：全国31省 91,896人参加

2021年NMPA/CDEが慢性B型肝炎に起因する肝線維症に対するF351を画期的治療薬に指定

調査結果：2024年公表

- 感染の認識HBs抗原の陽性率は**5.86%**と推定
- 15歳以上の参加者の約**58.78%**のみが自身の感染状況を認識
- 自身のHBV感染状況を認識していた人のうち
 - 38.25%**がCHB療法に適応あり
 - 実際にCHB療法を受けていたのは**17.33%**

Note: 推定患者数の試算はGNI Group作成（2025年5月）。本予測は、その算出の基礎となる仮定条件が変わることにより、予測値も変動する可能性があります。

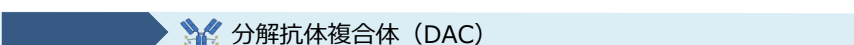
*出所：Prevalence of hepatic steatosis, fibrosis and associated factors in chronic hepatitis B
他データ出所：Journal of Clinical and Translational Hepatology, “Hydronidone treatment for liver fibrosis associated with CHB”

- ・ 上場準備費用による販管費の増加及びオーストラリアでの第1相臨床試験開始に伴う研究開発費の増加

(単位：百万円)	FY2024				FY2024 通期実績	FY2025 Q1	対前年比	FY2025 通期予想
	Q1	Q2	Q3	Q4				
売上収益	401	353	332	353	1,439	353	△12%	955
営業利益	△744	△743	△702	△1,182	△3,371	△1,138	—	3,982

■ 今期見通し

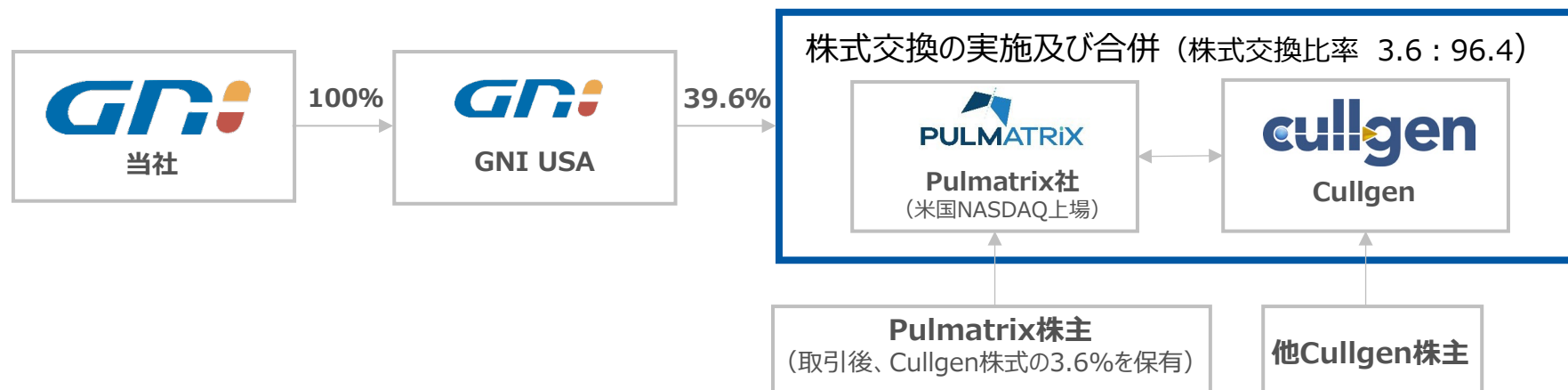
- ・ Cullgen上場は第2四半期を予定（上場後、連結子会社から持分法適用会社へ）
- ・ 上場に伴い、優先株式契約に基づく未払い利息分が利益として転換されるため、営業利益は黒字化見込み

品目	探索	INDの有効化	第1a相臨床試験	第1b/2相臨床試験	今後のマイルストーン
標的 TRK CG001419 急性痛、慢性痛					① オーストラリアにて第1a相臨床試験を実施中 2025年第4四半期に第1相の結果報告を予定
標的 TRK CG001419 固形がん					② 2025年第3四半期に固形がんを対象とした 容量拡大試験を開始する予定
標的 GSPT1 CG009301 がん（白血病、MYC）	 ★ 非酵素ターゲット				③ 血悪性腫瘍（血液がん、白血病等） を対象とした第1相試験を2025年4月に開始
標的 エピジェネティック因子 非開示 がん（前立腺、肺、膀胱）	 分解抗体複合体（DAC）				
標的 細胞周期 非開示 がん（乳がん、多発性固形がん）	 Cullgen E3 リガンド活用				

共同開発  astellas

【創薬】リバースマージャー取引概要

取引終了後、CullgenはNASDAQ上場へ



取引終了時に発生する上場益想定

1. 未払い利息（上場時発生の一過性収益）

優先株式契約に基づく年10%の支払利息を未払費用として
毎期計上。上場時にその他収益（営業利益内）として全額計上
→「創薬」セグメントに含む

- ・ 2024年11月13日（上場発表時）： 3,995百万円
- ・ 2025年3月末時点： 4,639百万円

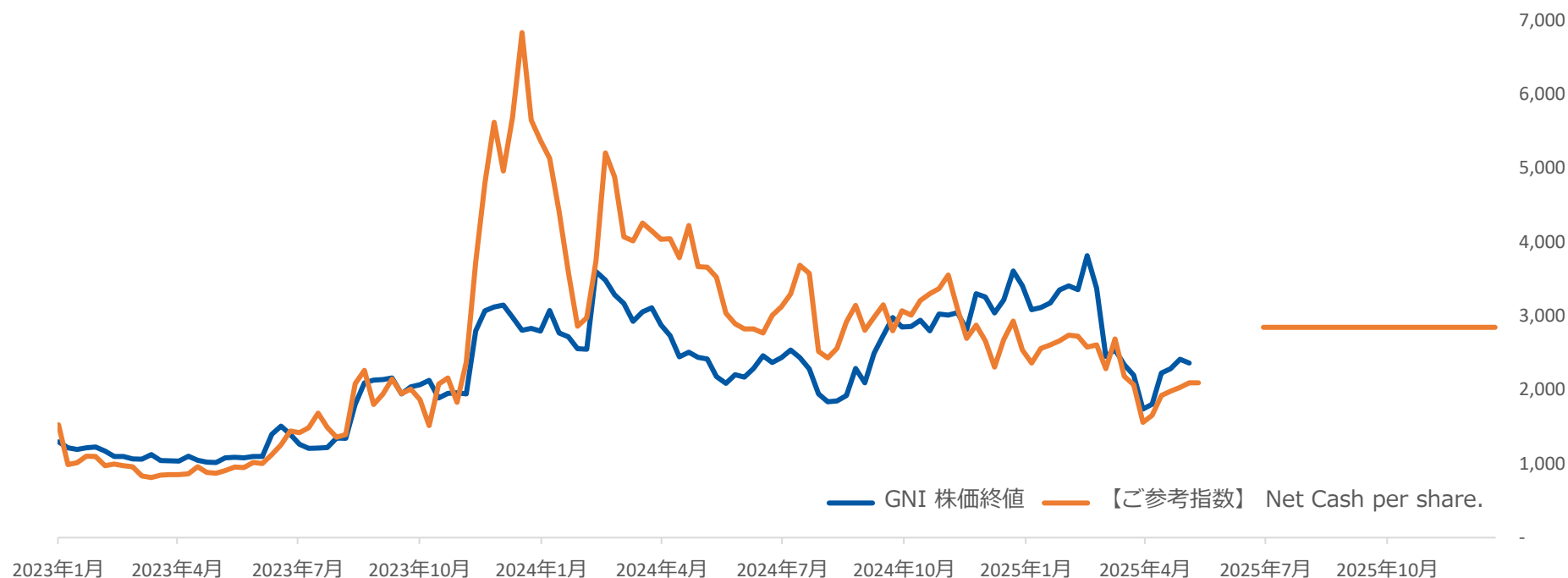
2. 上場評価益（上場時発生の一過性収益）

優先株式を普通株式に転換し、時価評価することで発生する
株式評価益。上場初値を基準値にその他収益（営業利益内）と
して計上（株式公開時の初値や為替レートによって実際の収益
は変動）
→「その他」セグメントに含む

- ・ 2024年11月13日（上場発表時）： 10,768百万円
- ・ 2025年5月13日時点（参考値）： 29,280百万円

【参考】Cullgenリバースマージャー成立後のValuation手法の例

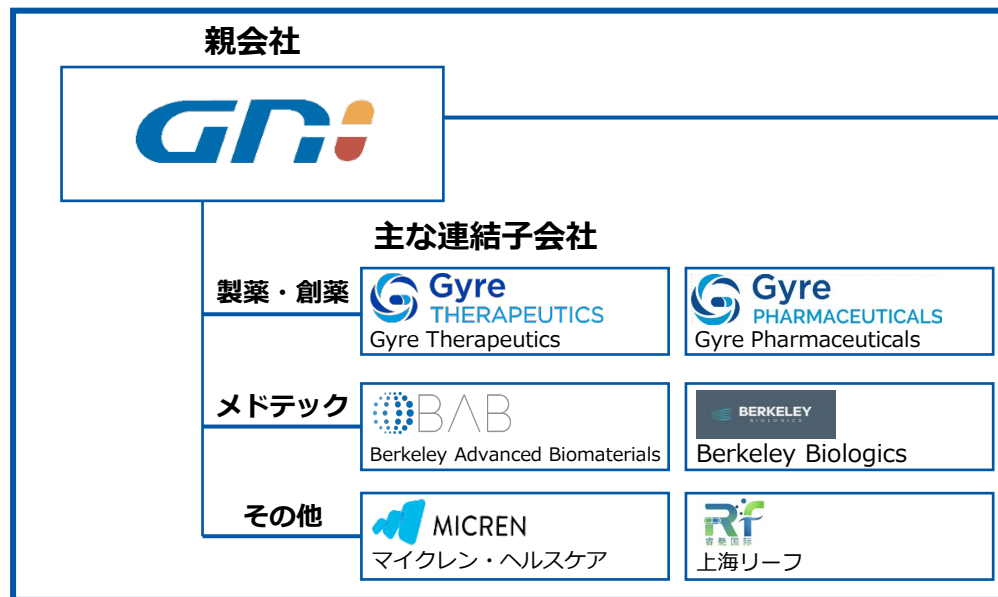
Cullgenの上場による価値の顕在化及び当社の株式価値最大化



本資料で提供される情報は、有価証券の価値等についての分析や評価手法の紹介となり、将来の株価等を予測または保証するものではありません。株価の評価予測は、仮定や前提に基づいており、実際の市場の変動、企業の業績、経済状況の変化、予期せぬ事象の発生等、様々な要因により、記載された内容と大きく異なる結果となる可能性があります。特に、本資料におけるCullgenに関する分析や考察の一部は、**Cullgenのリバースマージャーが成功するという仮定**に基づいて行われています。また、Gyre Therapeutics (GYRE) および Pulmatrix Inc. (PULM) に関する言及や比較分析においては、為替レート並びに**両社の株価が2025年5月13日の終値から変動しないという仮定**します。これらの仮定は、特定のシナリオ下での分析を目的としたものであり、現実これらが成立すること、あるいは将来にわたって維持されることを保証するものではありません。リバースマージャーの成否、為替レート及びGYRE、PULM株価の動向は、多くの不確定要素を含んでおり、これらの前提が実際の市場の動きや企業行動を反映するものではありません。本資料は、投資判断の参考となる評価手法の紹介を目的としたものであり、特定の金融商品の購入、売却、または保有の勧誘や推奨を目的としたものではありません。

【創薬】Cullgen上場後、持分法適用となる見通し

連結範囲



39.6%
(上場時点)

持分法適用 (2025年第3四半期以降)



売上収益及び営業利益には計上されず

親会社の持分のみ営業外で取り込み

純利益ベースでは変更による影響はなし

持分法適用会社化へのスケジュール

2025年5月～6月（予定）	CSRCの審査完了
2025年6月16日	Pulmatrix社株主総会開催
2025年6月中（予定）	リバースマージャー取引完了、Cullgen上場（上場時に一過性の上場益が発生）
2025年第3四半期以降（予定）	連結から外れ、持分法適用会社へ移行（営業利益外の持分法による投資損益として計上）

【メドテック】

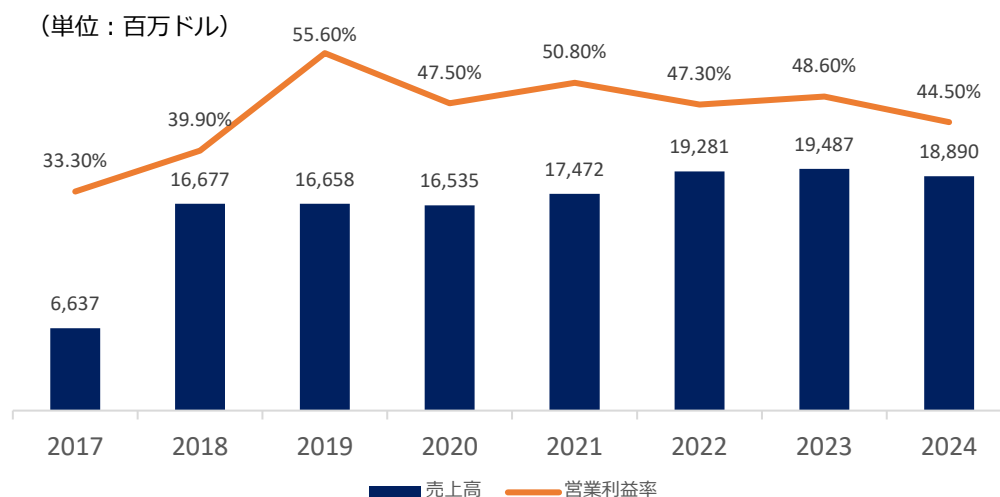
- 成長加速への投資として人員体制の強化および広告・マーケティングによる費用増加

(単位：百万円)	FY2024				FY2024 通期実績	FY2025 Q1	対前年比	FY2025 通期予想
	Q1	Q2	Q3	Q4				
売上収益	1,290	1,220	961	1,719	5,189	1,370	+6%	6,159
営業利益	283	424	152	84	942	245	△13%	1,269

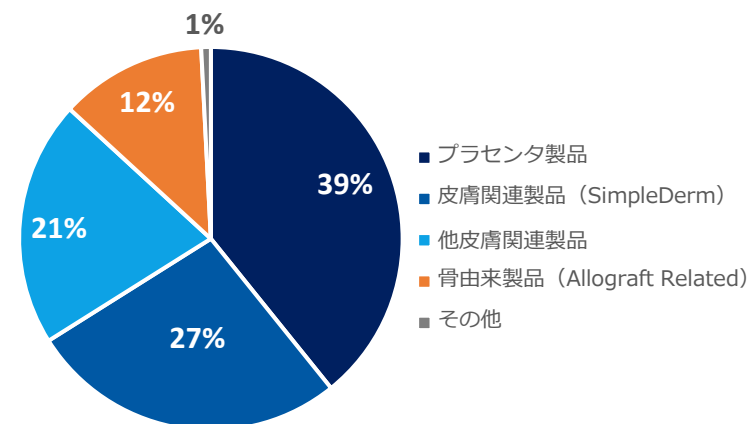
■ 今期見通し：2025年5月15日時点、過去最高となる売上及び利益見通しに変更無し

- BABは前年に引き続き堅調な収益を維持
- BBの第1四半期に獲得した大口受注による収益増加の見込み（第2四半期以降に収益計上）

BAB 売上高推移



BB 商品別売上構成比（2025年Q1）



【メドテック】OsDerma・美容市場への展開

ジーエヌアイグループのビジネスプラットフォームのシナジー具現化へ

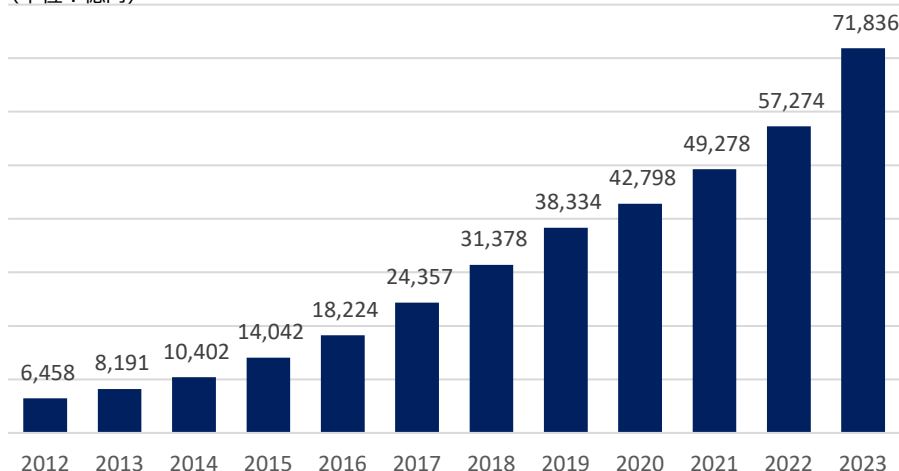
美容医療のハイエンド市場でのシェア拡大 及びブランド確立を目指す

Osdermaが開発するDermiraCa®

- 骨や歯の主成分であるHydroxyapatite (HAp)を配合し、高い生体適合性と生分解性を持つ製品
- 組織修復とコラーゲン再生を促進し、臨床試験で安全性・有効性を実証
- 即効性と持続的な再生効果の両立

2012年-2023年 中国における医療美容市場規模*

(単位：億円)



同業に対する競争優位性

美容整形領域における適応外使用への規制強化は同社にとっての追い風

① メドテックグループとのシナジー

競争力のある機能性素材の証明
原材料から製造まで、また製造設備の自社開発を含め一貫生産による高利益率の実現が可能

② 創薬グループ事業とのシナジー

臨床試験の経験が限られる同業他社に対し、当社は豊富な実績を保有
権威ある治験医師並びに病院ネットワーク確立

③ グループの資本力

他社は臨床試験をする上で資金調達が必要

進捗状況

2025年4月18日

国内の著名な形成外科専門家である羅盛康教授が主導し、北京協和医院など6つの権威ある医療機関と共同で実施される多施設共同臨床試験で最初の被験者登録を完了

Note : OsDerma Medical, Inc.は、当社が20%の株式を保有する持分法適用会社
出所 : iResearch (当社にて円換算)

4. 今期業績予想(2025年12月期)

2025年度 業績予想

■ 連結業績: 2025年5月15日時点、見通しに変更無し

(単位: 百万円)	2024年通期 実績	2025年通期 予想	対前年比
売上収益	23,611	28,733	+ 21.7%
売上総利益	18,037	22,954	+ 27.3%
営業利益	1,402	23,217	+ 1556.0%
税引前当期利益	238	22,541	+ 9371.0%
当期利益	△9	15,868	—
親会社帰属当期利益	1,098	12,058	+ 998.2%

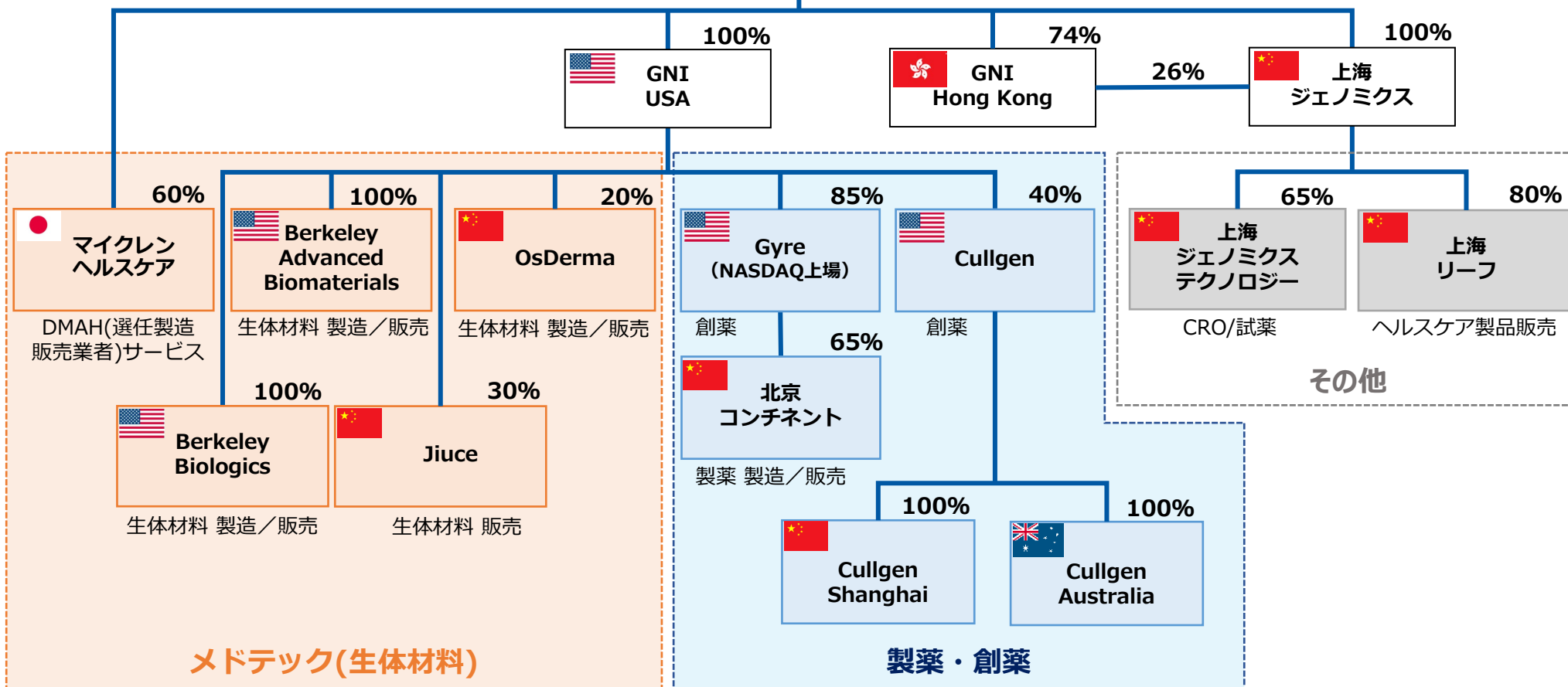
■ セグメント別

(単位: 百万円)	製薬	創薬	メドテック	その他
売上収益	20,202	955	6,159	1,525
営業利益	4,640	3,982	1,269	16,314

Note : Gyre Therapeutics, Inc.の業績はその他に含まれております。
創薬セグメントは2025年第2四半期までの業績を反映しております。
各セグメントの合算値と2025年12月期の会社予想との乖離は、連結修正によるものです。

5. 補足資料

グループ体制



お問合せ先： 株式会社ジーエヌアイグループ インベスターリレーションズ



: IR@gnipharma.com



: www.gnipharma.com

本資料に記載されている、意見や予測、今後の見通し等は、当社グループが、資料作成時点で入手可能な情報を基にした予想値であり、これらは経済環境、競争状況、新サービスの成否などの不確実な要因の影響を受け、大きく変動することもあります。従いまして、実際の業績及び戦略等につきましては、この配布資料に記載されている内容とは、大きく異なる可能性がございますことを、予めご承知おき下さい。また、事前の承諾なしに本資料に掲載されている内容の複製・転用等を行うことを禁止します。